

大型ヘリコプターで輸送可能な高圧発電機車の開発及び空輸訓練の実施について

- 車両本体の軽量化、及び、風圧荷重の低減を図るために屋根形状を蒲鉾型に変更し、自衛隊の大型ヘリコプターで輸送可能な高圧発電機車を開発しました。
- 9月2日の熊本県主催の総合防災訓練において、実際に陸上自衛隊西部方面隊の大型ヘリコプターで懸吊し、球磨郡水上村にある市房ダム上空を飛行しました。また、高圧発電機車を活用した応急送電の訓練も行いました。

[軽量化を図った高圧発電機車]

| | 開発仕様 | (参考) 従来仕様 |
|----------------------------------|---|---|
| 外観 (前面) 発電容量 300kVA |  |  |
| 車両重量 | 6,560kg | 7,350kg |
| 風圧荷重 | 570kg | 800kg |
| その他 | 非常災害時の応急送電および無停電工事中用電源として使用(低圧お客さま約 160 世帯へ電力供給が可能) | |



当社社員による懸吊工具の取り付け状況
(9月2日 総合防災訓練)



ヘリによる空輸状況
(9月2日 総合防災訓練)

[開発経緯]

- 平成 17 年 9 月 台風 14 号の影響で宮崎県の椎葉村が孤立し、停電復旧作業に時間を要しました。
- 平成 17 年 11 月 ライフラインの迅速な復旧を目的に、自衛隊の大型ヘリコプターで発電機車などの特殊車両を空輸できる「車両吊り装置」を開発し、低圧発電機車、高所作業車の空輸は可能となりましたが、風圧加重が大きいことなどが理由で、高圧発電機車の吊り上げはできませんでした。
- 平成 18 年 12 月 熊本県の陸上自衛隊西部方面隊大矢野原演習場において、高圧発電機車の吊り上げに成功しました。
- 平成 19 年 9 月 今回の熊本県主催の総合防災訓練において、空輸訓練を実施しました。